

仮小屋の跡もあります。アイヌたちは「これは十勝のアイヌが獵に
来た跡ですよ」などと言うので、なぜ分かるのかその訳を聞いてみ
ると「小屋の作り方で分かるのです」と教えてくれました。

この辺りはトドマツやエゾマツがうつそうと茂った森で、見上げ
ても空の色が見えないほどです。2キほど歩き、森の中で野宿をし、
雪を溶かした水で米を炊きました。その夜明け、雪の底に水が流れ
る音を聞いたので、傍らにあった木の皮をはいで一首書き記してお
きました。

今朝はやく 岩間の氷 融そめて

落くる音に夢もくだけぬ

(早朝から岩の間の氷が解けて

落ちてくるその音で目が覚めてしまったよ)

3月8日

夜明け前に出発。山はいよいよ険しくなり、600キほど登った
ら樹木はまばらになりました。その樹木も折れ曲がったカバノキば
かりです。山はさらに険しくなり、やっとのことで登りながら後ろ
を振り返ってみると、一昨日に野宿をした辺りから空知川までが
眼下に見え、そこからさらに2キほど登るにしたがつて、十勝岳、
ベベツ岳、チクベツ岳、石狩山などが、はつきりと見えるではあり
ませんか。このように、苦しい思いをして山をよじ登りながら、谷
間から雲が軽く吹き上がってくるのを見て

